

令和2年2月28日

平成31年度 学校評価の概要

都立南多摩中等教育学校
学校運営連絡協議会
評価委員会

分析

【生徒、保護者、教員の選択回答から】

※行頭の数字はアンケートの項目番号。各項目は継続して経年変化を調査している。

- 1 「南多摩中等教育学校に入学して良かったと思っている」
- 2 「先生は、生徒一人一人の実態を把握して、学力を身に付けさせる授業を行っている」
- 3 「先生は、生徒が主体的に取り組める授業を行っている」
- 4 「先生は、生徒の多面的・多角的な思考力を養う授業を行っている」
- 5 「各教科の課題量は適切である」について
- 8 「生徒は、基本的な生活習慣（ルールやマナーを遵守する態度）が身に付いている」
- 9 「生徒は、身だしなみを整え、あいさつをしている」

・以上7項目は同じ傾向にある。前期生は肯定的回答が今年度減少しており、後期生の肯定的回答は増加している。

→前期生の肯定的回答が減少していることは、学習意欲が薄れ、授業や課題に対して前向きに取り組むことができない生徒が増えてきているためと考えることができる。このことは、学校生活全般に渡って前期生の緊張感が薄れてきていることを表しているといえることができる。さらに、学習面や生活面で緊張感が薄れている生徒を見て不満を感じる生徒もいるのだろう。教員の自由意見欄には、生活に関わる指導の不足の指摘があり、後期生の自由意見欄には下級生の服装やマナー、挨拶を気にする声がある。1年生の入口指導や、日常の生活指導を今まで以上に徹底して、規律ある生活からの学習意欲の向上が求められていると考えられる。一方で、自立ができていない生徒からは校則が厳しすぎるという声があり、十分な配慮が必要である。

また、後期生の肯定的回答は増加傾向にある。自身の進路を見据えた学習意欲の向上、学校行事等の充実、各種取組による成功体験など学校生活が豊かなものになっていると考えられる。後期になると学習も自立したものが求められるが、前期生の時期の課題をこなすうちに勉強のやり方が身についた、という自由意見もあり、6年間の一貫教育に対する満足度が表れている。

ただし、前期生・後期生ともに、一定数の否定的回答があることは事実で、こうした生徒に対する学習面のサポートや心のケアも求められている。課題量については特に肯定的回答が少ないので、拡大学年会等で調整を行うとともに、教科ごとに身に付けさせなければならない学力の情報共有を密に行っていく。

- 6 「学校は、暴力やいじめの防止等、安心して学校生活を送れるように取り組んでいる」
- 10 「学校は、生徒一人一人の心の悩みに適切に対応し、解決に向けて努力している」
 - ・前期生の肯定的回答は今年度減少したが、後期生の肯定的回答は3年連続で増加している。
 - 普段の授業や集会等での意識づけをしっかりと行い、生徒が安心して学校生活を送ることができ環境づくりを一層推進していく。次年度も継続した指導を行っていく必要がある。

- 12 「生徒は、手帳や生活時間調査により、自分の時間管理ができている」
- ・昨年度と同様、全体的に肯定的回答が低い、後期生は増加している。
 - 前期課程では、学習時間や生活時間の管理に活用しているノルティ手帳や、定期テスト前の学習計画表作成などで自己管理を行うように指導しているが、上手にできていないと感じる生徒が増えてきている。よりきめ細かい指導が求められるところである。後期課程では、BYODを生かした隙間時間の活用を含め、自主的に計画を立て取り組むように指導をしていることが成果につながっている。
- 14 「学校は、日本文化と外国の文化を理解させる取組を行っている」
- ・今年度は肯定的回答が増加しており、特に後期生は大きく伸びている。
 - 今年度、WWL コンソーシアム構築支援事業による外部機関と連携した取組で探究学習の成果を英語で発表したり、12月にはオーストラリア・ニュージーランド・台湾から14人の留学生を受け入れたりした。このような国際理解や異文化理解につながる新規事業が増えたことが一因と考えられる。
- 17 「地域活動の行事に参加したり、地域と交流する機会がある」
- 19 「学校は、ホームページ、進路だより、学年通信等により情報発信を十分行っている」について（継続）
- ・3年間の比較をすると後期生の肯定的意見が増加してはいるが、改善の余地がある。
 - 太鼓部や南多摩フィルハーモニーの地域での演奏などはあるが、学校として全体で取り組んでいるとは捉えられていない。ホームページの更新は頻繁に行っており、メディアにも多く取り上げられたりしてはいるが、地域からのアンケートでも「よくわからない」の回答が非常に多く出てきている。地域と行う防災訓練、文化祭、授業公開、成果発表会など、実際の活動を見てもらい、学校に対する理解・関心を高めてもらうように取り組んでいく。
- 18 「生徒は、日頃から読書をしている」
- ・3年間を通して、後期生の肯定的回答が低く課題となっていたが、今年度も傾向は変わっていない。
 - 前期生は朝読書の時間が確保されている上、図書館司書の指導によるビブリオバトルや国語科の100冊プロジェクト等を行っている。それに対して、後期生は朝読書が朝学習に変わり、スマートフォンの利用が可能になることで通学中の読書が減少すると考えられる。後期生にも純粋な読書の時間を確保する工夫が求められており、今年度5年生は朝読書の時間を設けている。

【自由記述から】

- 1、前期生の荷物についての意見
 - ・前期生の荷物が重すぎて、成長に支障をきたすのではという心配の声が複数上がっている。
- 2、施設関係についての意見
 - ・照明やトイレをはじめ、施設の故障・不備に関しては経営企画室を中心にできるだけ早く対応をする。
- 3、街路灯についての意見
 - ・東側道路が夜間とても暗いため、学校の街路灯を点灯してほしいという要望が地域より上がっている。そのため、木を伐り、夕方5時から深夜1時まで点灯する措置を取っている。

4. フィールドワーク活動の成果について

- ・他校の高校生とともにビジネスの基礎やビジネスプランの作り方を学ぶ企業創業ラボに参加して視野が広がった、外部で探究学習の成果発表を行い発信の喜びを感じた、などフィールドワークの成果に対する声が上がっている。

提言

- 1 暴力・いじめや体罰・暴言の防止、心の悩みへの対応などをしっかりと行い、生徒・保護者にとってより一層安心で安全な学校を目指して、分掌・学年等で努力していく。
- 2 手帳等を使った時間管理、BYODのさらなる活用を促し、自立した生活態度、学習意欲の向上を図る。また、各教科の課題の設定も、成長段階に応じた適切な量となるように調整する。
- 3 地域に対する情報発信をより積極的に行い、地域を巻き込んだ防災訓練や学校公開、文化祭、成果発表会などで実際の活動を見てもらう。また、FW活動など外に出ていく活動においてより積極的に地域の方々とコミュニケーションを図る。このような取組を通して、学校に対する理解・関心を高めてもらえるように取り組んでいく。
- 4 挨拶励行・読書習慣の定着に向けて、集会・クラス・授業等、あらゆる場面においてそれぞれ委員会を活性化させ、自治的な取組を深めていくことを継続する。また、図書館司書の指導による前期生のビブリオバトルへの参加や、国語科の100冊プロジェクトなど、読書に関心を持ってもらう取組を継続して行う。
- 5 働き方改革については、取組が十分に評価されていないが、校長の月平均定時外勤務時間45時間を基準に考えると、25人の職員はその数字を下回っている。一方で過労死ラインと考えられる定時外勤務時間を超過している職員が17人いるが、これらの職員の定時外勤務時間は今年度4月と12月とを比較して平均で1日30分短縮されている。しかし、いじめや保護者対応など定時外に行われている不可欠な業務があり、これがなければ学校運営が成り立たないのも現実である。このような状況ではあるが、一人一人が働き方改革を意識して、少しでも定時外勤務時間の短縮に取り組んでいく。